

# 木崎中だより

8号

平成30年11月30日(金)  
さいたま市立木崎中学校  
048(886)4302

## 手書き文化一考

校長 大谷 慎也

「いそがしく 時計の動く 師走かな」(子規) 月日の経つのは早いもので、今年も僅かとなりました。過日実施いたしました合唱コンクールや全校三者面談をはじめ、これまで本校の教育活動に様々な面から御支援・御協力を賜りました保護者の皆様や地域の皆様に心より感謝申し上げます。

12月は一年の納めの時期であるとともに、新年を迎える準備の時期でもあります。筆不精の私は、年賀状の図案を考えるのが苦手で、いつも思案に暮れる年の瀬となってしまいます。

さて、文化庁では、国語に関する調査を行っています。年ごとに調査項目は変わりますが、言葉の使い方やその変化等、時代や社会状況を反映していることがわかります。調査としてはやや古いのですが、「平成24年度『国語に関する世論調査』の結果の概要」(調査対象:全国16歳以上の男女、調査時期:平成25年3月、調査方法:個別面接調査、調査対象総数:3,523人)について紹介します。調査項目「手紙の作法や手書きで文字を書くことについて」の中で、「ふだん、手書きで文字を書く方か、それとも書かない方か。」という質問があり、(1)はがきや手紙などの宛名、(2)年賀状の宛名、(3)はがきや手紙などの本文、(4)報告書やレポートなどの文章の四つの場合について尋ねています。その結果は、「いつも手書きをする」と「大体手書きをする」を合わせた「手書きをする(計)」は、(1)はがきや手紙などの宛名、(3)はがきや手紙などの本文で60%台、(2)年賀状の宛名で50%台、(4)報告書やレポートなどの文章で30%台でした。過去の調査結果(平成16年度調査)との比較では、四つの場合のすべてで「手書きをする(計)」と回答した人の割合が減少しています。特に、(2)年賀状の宛名、(4)報告書やレポートなどの文章は、それぞれ15%ほど減少しています。勿論、手段としての手書きの選択は、時・場・相手・目的等の様々な要件から判断することになりますが、味わいのある手書き文化を考えると何かものさびしく感じます。

近年パソコンや携帯電話、スマートフォン等情報通信機器の開発と普及は目覚ましいものがあり、前の調査結果にも影響していると考えられます。手書きのはがきや手紙、報告書やレポートに代わって、メールによる画面での迅速な送付や閲覧が可能となり、大変便利な世の中となりました。そして、子どもたちの生活にも変化がうかがえ、大晦日に家族そろって除夜の鐘をしみじみと聴き、元日の手書きの年賀状を楽しみにすることよりも、自分の部屋で、新年のカウントダウンが終わると同時に友人へメールで迎春の喜びを伝えることを優先する子どももいるようです。携帯電話やスマートフォンの所有率が高まる中、過度の使用による依存で生活習慣が乱れたり、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を巡るトラブルに巻き込まれたりするケースも増えてきています。そのため、本校でも、1学期から「携帯・インターネット安全教室」や集会等で望ましい使い方やマナーについての啓発、保護者の方々へのリーフレットの配布等による協力をお願いを行いながら、トラブル防止に努めてきました。クリスマスや正月、冬休みを迎えるにあたり、新たにパソコンやスマートフォンを購入することがあることと思います。改めて学年集会や終業式の際に生徒へ注意喚起を行いますが、保護者の皆様におかれましても、特に、お子様が所有している、あるいは、今後所有する場合には、一日の使用時間、夜間の使用時間制限、フィルタリング設定、会員登録やダウンロードの禁止、個人情報の掲載の禁止、使用料金の上限決定等、ルールを話し合い、定期的な点検をお願いいたします。

寒さが日増しに厳しくなっていますが、生徒、保護者の皆様、地域の皆様、そして、教職員にとりまして、新しい年が幸多き年となりますことをお祈り申し上げます。来年は、更に教職員一丸となって「よく考えて行動する生徒 思いやりのある生徒 はつらつとした生徒」の育成に邁進する所存でありますので、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。